

提携米通信

2010年6月号・黒瀬農舎発

ストーブが離せない春作業



今年の天候は、日本中狂っているようです。

秋田の4月も、寒くて大荒れでしたが5月に入り田植えなど春作業の最中になっても、寒くてストーブと縁が切れません。

我が村の桜ロードのソメイヨシノは、3月の雪解け頃には「今年の開花は早い」と予報されていましたが、その後の悪天候で大幅に

遅れて、4月末に咲きはじめ、ゴールデンウィーク中豪華な花が楽しめました。

田圃や倉庫の近隣の農家を招いての恒例の「花見会」を今年も行いましたが、寒くて、桜の樹の下で行うことができず、我が農舎のロッジでストーブを炊きながら・・・また、日本酒や焼酎のお湯割りが中心になりビールはほとんど残ってしまいました。

最近の我が家の主役である2人の孫は、上の写真の一番手前に写っていますが、上の悠真は2歳半となり、先月から保育園に通い始めました。また、下の花穂は初めての誕生日を迎え、スクスクと育ており喜んでいきます。

ところで、この悪天候で種蒔きを遅らせましたが、寒い日は、苗床に移してからも続き、その上、我が家の苗作りは、農薬や化学肥料を使わないだけでなく、ビニールハウスも使わず露地で育てていますので病気が出たり、生育障害が出るのでは・・・と心配していましたが、元気に成長してくれました。

その後の本田の作業も、寒さや雨天が多く、たまの好天日には4時前からの作業を強いられたり、また、田植えを始めても、昼食時にはストーブがないと寒くて食事できない日もあるなど難儀しますが、幸い5月中に田植えを終えられました。

提携米 黒瀬農舎

〒010-0445

秋田県南秋田郡大潟村西1丁目4の7

黒瀬 正・喜多

TEL 0185-45-3086 FAX 0185-45-2867



☆これから虫・カビの時期に入ります。お米が余った方は、遠慮なく減量やパスのお電話をお願いします。

E-mail : akita@kurose.com <http://www.kurose.com>

冷害・有機農法・所得補償農政

写真は、田圃をプラウで耕し、水を入れて代かきする直前に米ぬかなどの有機肥料をトラクターで散布している様子です。

今年は寒くて低温のため、写っている八重桜は5月27日頃まで咲いていました。

私たちの村は、ほとんどの農家が、お米作りだけで生計を賄っているという、最近では他ではない地域です。

このため、お米作りの技術や経営に一生懸命に取り組ま

ねばならない環境にあるため、わずか500戸余りの村で有機栽培されるお米の量は、推計では、全国の有機米の総生産量の4分の1を超えるという驚くべき状況です。

この私たちの村にとって、今年は2つのことが問題になっています。

その一つは、今年の悪天候です。

農薬と化学肥料、発達した農機という3種の神器による最近のお米作りは、昔と比べれば10倍位ではなく、恐らく20倍以上も楽になり、片手間の兼業農家でも楽にこなせるし、30畝、50畝という大規模稲作も家族労働だけで可能です。

しかし、農薬や化学肥料を使わない有機の米作りは、兼業農家では取り組めない緻密な管理技術が必要で、多大な労力はもちろん気苦労は10倍もいります。

その上、有機の場合に、今年のような悪天候で一番心配なことは「冷夏」の稲熱病被害です。平成4年の大冷害の年に隣の岩手の太平洋側では、収穫皆無もあった中で、我が地域は冷害による生理的な直接被害はほとんどなかったという恵まれた風土です。

しかし、直接被害はなくとも、冷夏は稲熱病を呼びます。「農薬」を使わない私たち有機農家は、夏の天候を大変心配しているところです。

もう一つは、所得補償政策の発足です。

この政策で、我が村で広がってきた、有機栽培普及の機運がなえてきています。

「苦勞して有機栽培するよりも、農薬化学肥料を多用して、収量を上げ、米が余って値段が下がれば、所得補償を受ければよい。」という農家が増えてきたのです。

このような悪政による農民のモラルハザードは今後も次々と現れ、日本農業の基盤が荒れされることが心配です。



田植えの初日目、丁度日曜で保育園が休みで孫・悠真も田圃にきました。田植機に乗って大喜びです。